



コオロギラン

Stigmatodactylus sikokianus Maxim.

明治22年（1899）牧野富太郎27歳の時、高知県越知町横倉山で発見命名（和名）。世界的植物学者ロシアのマキシモヴィッチはこの精密画を絶賛した。

牧野富太郎の植物画

自然科学の基礎は観察であり、その結果を伝えるのに図にまさるものはありません。牧野富太郎は少年時代からそのことを認識し、生涯をかけて精密な図による日本の全植物の記録を目指しました。

江戸時代においても、本草学の範疇にとどまらない純然たる植物図譜が多くつくられ、幕末にはリンネの体系によった「草木図説」（飯沼慾齋著）も著されています。しかし、西欧の印刷に肩を並べることのできる図版の登場は、牧野富太郎を待たなければなりません。

牧野富太郎は、文久2年（1862）高知県佐川町の造り酒屋に一人息子として生まれました。生家は裕福でしたが、幼い時に両親と祖父を相次いで喪い、祖母の手で育てられました。病弱だった富太郎の養育に、祖母は並々ならぬ苦心を払ったといわれます。

富太郎は生まれつき植物が好きだった上に、植物を図描する才能に恵まれていました。郷里佐川にいた少年時代に、早くも和紙に描いた多くの植物画を残しています。

明治7年（1874）富太郎は小学校に入学しますが、私塾や藩校ですでに漢学から西洋の先端的な学問まで学んでいたため、これに飽き足らず2年でやめてしまいます。やがて植物学を本格的に研究したいという志がやみがたくなり、明治17年（1884）上京、東京大学理学部植物学教室に出入りを許され、水を得た魚のように研究に没頭します。

明治21年（1888）「日本植物志図篇」第1巻第1集（11集まで刊行）を刊行。自ら描いた植物図を自ら石版で製版印刷して自費出版したもので、富太郎の徹底主義がよく表れています。この「図篇」によって、植物学者としての力量と図を描く技量が認められたといえます。

次いで明治33年（1900）には東京帝国大学植物学教室から「大日本植物志」を刊行。明治44年（1911）の第4集刊行まで、10年の歳月を費やしてわずか9種の植物を記載するにとどまりましたが、精巧な図版と完璧な記載文によるフォーリオ版4冊は、世界でもトップクラスのもので、富太郎の実力をいかに発揮したものです。

これらの植物画は毛先の細い面相筆で描かれ、彩色は色変わりを嫌ってイギリスの最高級品ウィンザー・ニュートンの絵具を使っています。

富太郎の図は、植物の備える情報を正確に表現するため、植物の「かたち」を写真のようにあるがままにではなく、その典型がよく表れるように、時には葉や茎、花卉などを少し捻った角度から描いています。さらに、部分図や解剖図をふんだんに盛り込みながらわずらわしさがなく、立体感をもって、枠の中に美しく収斂させていることも特徴といえます。

シュールレアリズムを思わせるような精密な図、自在な筆使いのスケッチ、ユーモラスな添書き、残された富太郎の植物画は多彩で、人間性にあふれています。

牧野富太郎は、日本の植物分類学の基礎を築くとともに、植物画の歴史にも大きな足跡を残したといえましょう。



はじめに

高知県が生んだ世界的な植物学者牧野富太郎博士は、「植物の父」と呼ばれ内外から限らない尊敬を受けました。

博士は自らを「植物の精」といい、植物を人間同様に慈しみ、「草を褥に木の根を枕 花と恋して九十年」の歌のとおり、九十余年の生涯を植物研究に捧げました。

全国の山野を踏査して採集した植物には徹底した研究観察を加え、これに基づいて描いた植物画と図解は精密を極め、正確な説明につとめました。博士の植物画は正にボタニカルアートというにふさわしく、第一級の芸術品との評価がなされています。

今回は、当園牧野文庫にご遺族から寄贈された博士の全蔵書5万4千点の中に含まれている7800点の植物画の中から、博士直筆の植物精密画32点をまとめました。偉大な業績の一端に触れていただければ幸いです。

平成4年8月1日

高知県立牧野植物園

園長 里見 剛



高知県立牧野植物園所蔵

牧野富太郎植物画集

1992. 8. 1 発行

編 纂 高知県立牧野植物園
発 行 高知県立牧野植物園
〒780 高知市五台山3579-2
Tel 0888-82-2601
印 刷 有限会社みちや印刷所

2001. Dec. 09